

クビアカツヤカミキリ情報第1号（モモ、ウメ）

令和8年5月18日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

クビアカツヤカミキリの生息域が拡大しています 成虫の飛来に注意し、しっかり防除しましょう

1 クビアカツヤカミキリについて

(1) 形態及び特徴

成虫の体長は約2～4cm、体色は光沢のある黒色で前胸背板が赤く触角は黒色で長いことが特徴です（写真1）。本種は特定外来生物のため、生きたまま持ち運ぶことは禁止されています。

(2) 生態

成虫は6月から8月（早いときは5月下旬から発生する可能性あり）に発生します。成虫は交尾後にサクラ、ウメ、モモ、スモモなどの樹木に産卵します。個体あたりの産卵数は数百～1000個と非常に多いです。樹木の樹皮表面や割れ目などに産卵し、ふ化した幼虫は樹木内部に入ります。幼虫は樹木内部で2年過ごしたのち、羽化して樹木外へ出ていきます。

2 県内における発生状況

県内では名古屋市、津島市、犬山市、小牧市、稲沢市、東海市、岩倉市、愛西市、弥富市、あま市、大治町、蟹江町、飛島村、豊田市でサクラを中心に本種により木が枯れる被害が発生しています。また、瀬戸市、清須市においても、本種の成虫が確認されています（令和7年11月現在）。

3 防除対策

(1) 成虫対策

ア 成虫を発見した場合は、直ちに捕殺してください。成虫による産卵の恐れがあるため、**成虫発生数の多い6月中旬～8月中旬（特に6月下旬～7月下旬が重要とされる）に登録のある薬剤を収穫前日数に注意して、複数回散布**しましょう。主な防除薬剤は表1を参考にしてください。

イ 雌成虫による産卵を抑制するため、根元から1.5m～2m程度の高さまで、0.3mm目合いの白色ネットを巻き付けましょう。産卵しにくいよう、ネットを巻き付けるときは樹木から10mm隙間を設けましょう。

(2) 幼虫対策

フラスを見つけたら（写真2）、食入孔に詰まっているフラスを針金等で掻き出し、幼虫を掘りとりか刺殺し、表2の薬剤を食入孔内に注入し幼虫を駆除しましょう。

(3) 成虫飛散防止対策

被害木（フラス排出など）に対し、羽化した成虫の拡散を防ぐため、根元から1.5m～2m程度の高さまで、4mm目合いのネットを2重に巻きつけ、定期的にネット内を観察し、成虫を見つけたら捕殺してください。

(4) 被害が大きい場合

被害拡大を防ぐため、被害木を伐採及び伐根しますが、成虫発生時期を外し、10月から翌4月に行います。伐採した木は、木の内部に幼虫が生息しているので放置せず、速やかに焼却または粉砕する必要があります。被害木の処分、運搬などについては、取り扱いに注意が必要なため事前に市町村へ相談してください。



写真1 成虫



写真2 木から排出されたフラス

表1 もも、うめのクビアカツヤカミキリに登録のある主な農薬 (成虫対象)

農薬	適用作物	使用時期	使用方法	使用回数	RACコード
アグロスリン水和剤	もも	収穫前日まで	散布	5回以内	3A
モスピラン顆粒水溶剤	もも うめ	収穫前日まで	散布	3回以内	4A
ダントツ水溶剤	もも うめ	収穫7日前まで 収穫前日まで	散布	3回以内	4A
アクタラ顆粒水溶剤	もも うめ	収穫前日まで 収穫7日前まで	散布	3回以内 2回以内	4A
ハチハチフロアブル	もも	成虫発生期 但し、 収穫前日まで	散布	2回以内	21A
アクセルフロアブル	もも類 うめ	収穫前日まで 収穫前日まで	散布 樹幹散布 散布	4回以内(樹幹散布は2回以内、散布は2回以内) 3回以内	22B

表2 もも、うめのクビアカツヤカミキリに登録のある主な農薬 (幼虫対象)

農薬	適用作物	使用時期	使用方法	使用回数	RACコード
ロビンフッド ※	もも うめ	収穫前日まで	樹幹・樹枝の食入孔 にノズルを差し込み 噴射	5回以内	3A

※ ロビンフッドはカミキリムシ類で登録

4 連絡先

愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除室
電話：0561-41-9513